

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月6日

【四半期会計期間】 第104期第3四半期(自平成30年7月1日至平成30年9月30日)

【会社名】 JUKI株式会社

【英訳名】 JUKI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清原 晃

【本店の所在の場所】 東京都多摩市鶴牧二丁目11番地1

【電話番号】 042(357)2211(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務経理部長 鈴木正彦

【最寄りの連絡場所】 東京都多摩市鶴牧二丁目11番地1

【電話番号】 042(357)2211(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務経理部長 鈴木正彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第103期 第 3 四半期 連結累計期間	第104期 第 3 四半期 連結累計期間	第103期
会計期間		自 平成29年 1月 1日 至 平成29年 9月30日	自 平成30年 1月 1日 至 平成30年 9月30日	自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日
売上高	(百万円)	74,228	81,703	103,659
経常利益	(百万円)	5,391	5,603	7,839
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	3,771	3,645	5,642
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	3,941	3,077	6,373
純資産額	(百万円)	30,911	35,374	33,343
総資産額	(百万円)	110,692	118,171	110,554
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	128.75	124.43	192.61
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	27.40	29.36	29.60

回次		第103期 第 3 四半期 連結会計期間	第104期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年 7月 1日 至 平成29年 9月30日	自 平成30年 7月 1日 至 平成30年 9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	46.68	58.13

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2 売上高には消費税等は含まれておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間においては、お客様の省力化・省人化ニーズに合った製品・サービスや工場全体の生産効率を高めるスマート工場などを提案するソリューション営業活動に取り組むとともに、将来に亘る磐石な顧客基盤の構築のため、アジア市場を中心としたミドルマーケットでの攻略を推進してまいりました。その結果、電子部品の供給不足などによる一部の生産遅延の影響はあるものの、アジアおよび中国の活発な設備投資需要を着実に取り込むことが出来たことにより、売上高は817億3百万円(対前年同期比10.1%増)となりました。

利益面につきましては、ミドルマーケットの市場攻略費用や先端開発費用の増加はあったものの、全般的には売上が増加したことで、営業利益は62億2千1百万円(対前年同期比11.7%増)となりました。また、営業外においては、債権の評価替による為替差損が増加したことなどから、経常利益は56億3百万円(対前年同期比3.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は36億4千5百万円(対前年同期比3.4%減)となりました。

(主なセグメント別の概況)

縫製機器&システム事業

市場別では中国などのハイエンド分野での売上は堅調に推移し、また、アジア市場におけるミドルマーケットでの売上も前年同期より増加してきていることから、縫製機器&システム事業全体の売上高は537億6千9百万円(対前年同期比8.6%増)となりました。利益面においては、売上増の影響がある一方で、ミドルマーケットでの市場攻略費用を投下したことなどから、セグメント利益(経常利益)は36億7千2百万円(対前年同期比10.7%減)となりました。

産業機器&システム事業

産業装置では最大の市場である中国やアジアにおける設備投資需要が旺盛であるなか、新型マウンタやスマートファクトリー提案で展開する省力化装置などの売上が増加し、また、受託加工等のグループ事業でも顧客開拓が進んでまいりました。しかしながら、生産遅延により一部の需要に応えられなかったこともあり、産業機器&システム事業全体の売上高は277億2千9百万円(対前年同期比13.3%増)となりました。利益面においては、新製品の販売増による利益率の改善もあり、セグメント利益(経常利益)は27億1千9百万円(対前年同期比47.8%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金やたな卸資産が増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ76億1千6百万円増加して1,181億7千1百万円となりました。負債は、支払手形及び買掛金や未払法人税等などが増加したことなどにより前連結会計年度末に比べ55億8千5百万円増加して827億9千7百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加などにより前連結会計年度末に比べ20億3千万円増加して353億7千4百万円となりました。

これらの結果により、自己資本比率は29.4%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費の総額は、42億5千6百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,874,179	29,874,179	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	29,874,179	29,874,179		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年9月30日		29,874		18,044		2,094

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日(平成30年6月30日)に基づく株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 578,000		普通株式
完全議決権株式(その他)	29,250,000	292,500	普通株式
単元未満株式	46,179		普通株式
発行済株式総数	29,874,179		
総株主の議決権		292,500	

(注) 「単元未満株式」には、当社保有の自己株式 96株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) JUKI株式会社	東京都多摩市鶴牧 2 - 11 - 1	578,000		578,000	1.93
計		578,000		578,000	1.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年1月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,407	6,602
受取手形及び売掛金	32,398	32,940
たな卸資産	36,652	43,135
その他	4,041	4,605
貸倒引当金	397	417
流動資産合計	79,102	86,865
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,452	12,013
土地	6,459	6,362
その他(純額)	4,632	4,979
有形固定資産合計	23,545	23,354
無形固定資産		
投資その他の資産	1,672	1,993
その他	7,846	7,407
貸倒引当金	1,612	1,450
投資その他の資産合計	6,234	5,957
固定資産合計	31,451	31,305
資産合計	110,554	118,171
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,049	16,781
短期借入金	34,548	35,487
未払法人税等	666	1,617
賞与引当金	16	641
その他	6,308	6,806
流動負債合計	55,589	61,335
固定負債		
長期借入金	15,668	15,440
役員退職慰労引当金	61	68
退職給付に係る負債	5,207	5,176
その他	683	775
固定負債合計	21,621	21,461
負債合計	77,211	82,797

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,035	2,035
利益剰余金	13,994	16,614
自己株式	606	606
株主資本合計	33,468	36,087
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,016	790
為替換算調整勘定	1,966	2,389
退職給付に係る調整累計額	208	200
その他の包括利益累計額合計	742	1,398
非支配株主持分	617	684
純資産合計	33,343	35,374
負債純資産合計	110,554	118,171

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	74,228	81,703
売上原価	51,126	56,863
売上総利益	23,101	24,839
販売費及び一般管理費	17,530	18,618
営業利益	5,571	6,221
営業外収益		
受取利息	41	33
受取配当金	119	122
受取手数料	176	151
貸倒引当金戻入益	51	172
その他	277	348
営業外収益合計	667	828
営業外費用		
支払利息	729	612
為替差損	85	782
その他	32	51
営業外費用合計	847	1,446
経常利益	5,391	5,603
特別利益		
固定資産売却益	38	15
特別利益合計	38	15
特別損失		
固定資産除売却損	39	35
その他	27	
特別損失合計	66	35
税金等調整前四半期純利益	5,363	5,583
法人税等	1,570	1,834
四半期純利益	3,793	3,749
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	103
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,771	3,645

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	3,793	3,749
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	193	226
為替換算調整勘定	79	437
退職給付に係る調整額	34	7
その他の包括利益合計	147	671
四半期包括利益	3,941	3,077
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,915	2,989
非支配株主に係る四半期包括利益	26	88

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法等を採用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形割引高	百万円	13百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
減価償却費	1,719百万円	1,853百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年3月28日 定時株主総会	普通株式	585	20.00	平成28年12月31日	平成29年3月29日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年3月26日 定時株主総会	普通株式	1,025	35.00	平成29年12月31日	平成30年3月27日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内訳は、普通配当25.00円、創立80周年記念配当10.00円であります。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	縫製機器 &システム 事業	産業機器 &システム 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	49,512	24,471	73,984	244	74,228	-	74,228
セグメント間の内部 売上高又は振替高	725	277	1,002	351	1,354	1,354	-
計	50,237	24,749	74,987	595	75,583	1,354	74,228
セグメント利益	4,113	1,839	5,953	33	5,987	595	5,391

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業等を含んでおりません。
- 2 セグメント利益の調整額 595百万円には、セグメント間取引消去 11百万円、各報告セグメントに配分していない全社損益 583百万円が含まれております。全社損益は、主に各報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用及び各報告セグメントに帰属しない為替差損益等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	縫製機器 &システム 事業	産業機器 &システム 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	53,769	27,729	81,498	204	81,703	-	81,703
セグメント間の内部 売上高又は振替高	758	261	1,020	348	1,369	1,369	-
計	54,527	27,991	82,518	553	83,072	1,369	81,703
セグメント利益	3,672	2,719	6,391	44	6,436	832	5,603

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業等を含んでおりません。
- 2 セグメント利益の調整額 832百万円には、セグメント間取引消去 5百万円、各報告セグメントに配分していない全社損益 827百万円が含まれております。全社損益は、主に各報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用及び各報告セグメントに帰属しない為替差損益等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益	128円75銭	124円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	3,771	3,645
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	3,771	3,645
普通株式の期中平均株式数(千株)	29,296	29,296

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月2日

JUKI株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 樋口 義行

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉本 健太郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているJUKI株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年1月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、JUKI株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。